



葛飾北斎「浮世画譜」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

山口町人安部氏の奥州旅日記

② 「みちのく行」

No. 1

安部家文書

5

2

5

—

1

美

知

結

定

約

Handwritten text in a vertical column, possibly a signature or a list of items, written in a cursive script. The text is oriented vertically and appears to be written on a piece of paper with a vertical line and some faint markings.

此中ニ二景不似る者有 櫻山者
以ち三トオシテ元日蓮上人法門ニ
キエニ下今ハ法華上ニ意在二景系
ハニ白クハクヲツキハクニモウ

八咫 天中ニ ○ハ楹あか 院花後
シラヌト云

山本如伴二人入寸ハ夫ス 羊在ナリ

○西中山妙法寺道ノ兼經古者

女重塚有 前山門 橋有
萩加太伯者 移者多

瀧川院 有 地子ヤ村者

一十一日早朝出立ツ 居也又ケ 壇院

桑 州市ウクトコト 以カ方シカ有リ

里 程中カカシ 居也又ケ 壇院
及ニ名多ク 寺ニ多ク 居也又ケ 壇院
可ト云ク 居也又ケ 壇院

百廿

大東

木下風

○香取山金剛宝寺 嘉八

御本此祝音日益命之

三堂塔有 御朱印也

一川半斗水方落

可三形塔

潮来十書 初于前于稻可身

○山間二 秋落十六有 秋之云云

東照宮御開去之也 已恐

○沼屋有 魚人家多 池如左有

玉佛 名ワ内 二リ下

大正 溪之 池本 开有 十人可

○麻 大神宮 之 糸 池 町 多

前 开有 日王三天 様 町 有 西 約

表表二 二玉ノ如干 壬ノ六 体力有 各

首 家 送 去 于 台 手 三 祀 之 志

表表二二玉ノ如千手ノ六体有者

首髪違立テ右手ニ把ツル也

大正有ニハ圖ニハ大正有ハ有ハ開表ニ

其形ハ如シモイレヒニ文化傳ト是

○御拜殿表向○御本社表向

二丁斗行真院

○大神宮社有前拜糸玉燈

ハナクハケウエウニシテモノカヒタリ

一丁行下リ又一丁

○御手洗有



池 匠古石 冷泉 浄水 湧出

右行丁三丁ハカリ

○要石 玉カキ 有 石ノ御柱ト云

日外ノ石ハ修築ト三丁ニモシ 又ハ有者

茨木ノ山ト云

日外ノ石ハ修築ト三丁ニモシ 又ハ有者

御柱

是ヨリ平松林中ノ御宮向行丁十釘

結神

○見月明神 小社有

以神易津本八造よりおん玉の
御役ヲカウツリ玉フヨシ

又カヤ白ウツ分ニ
凡ナ丁斗エキ

○山石松切口ヨリ
茶ノ丸

○ウツリまの石有

忌中御退治此石

ニ斗右ニカノ山ニ干あつ見
約也リ魁ハ平ナル岳ナリ
天守ナトノ旧跡ニハとらを里人ニ
百トモニラス

○又エナ川 小流ニテ上下ナシ
立月御録ヲ清キ玉ヒニホトウ

七八丁斗結神
○麻鶴嶺 赤内請海エニツク
光ルアライツ

山鳥ノ谷ハ有リト云

継子ノ境ニテ候ナリ

凡リ

川河日本才司水舎了殿
三丁川口榎ノ海三丸継子木
六丸カ 初東流 赤白水道
宮市ニテユ十二江トモ可云

本城 大栄 子 今ノ史ノ高也村

世宗 辰沼村 此亦親善 官道也者

○辰沼山 福寺 在東方也
高樓也者 多宝塔有 跡也多

四ノ橋 以ノ村ノ必カ有シ 是ノ也
奉ル 福寺ノ下ノ村ノ
人亦 行ノ村ノ

白水行ノ村ノ村ノ

○和田本 記 有且ノ記ノ龍以白

大ノ事ノ川ノ口ノ丸ノ眼ノ下ノ是

○如田不動 石且之良志義改ノ口

早ノ糸水也

老、童于川口なる凡眼下是
濱ニク白クハ 兼子新有まヨリ
山積 伸ノ方、吹丁七丁針ニナ

○川口白紙朋神社名 仰儀ハ

目途カ白晃 亦新丁五丁針ニナ

小方高同丁 田中又年なる程高

沙海本ハ六程改、白干吹多ノ上ニ

あり急トス 河川口也 人福不叶トナ

まヨリコトス 凡カ 何ノク給

飛方しもの 本ホヘハ 石屋在座有

モリト上ノ白羽雲ナリ 古縁

酒造沖方なる 凡ノ下ニナリ

九丁新

十川

此而五十年前迄八日本

才一狼切三丁

大綱中迄

大富

宋州候ヨリ

有と所免ノ由

ありて

好名

早

亦

切

右

或

接

意

意